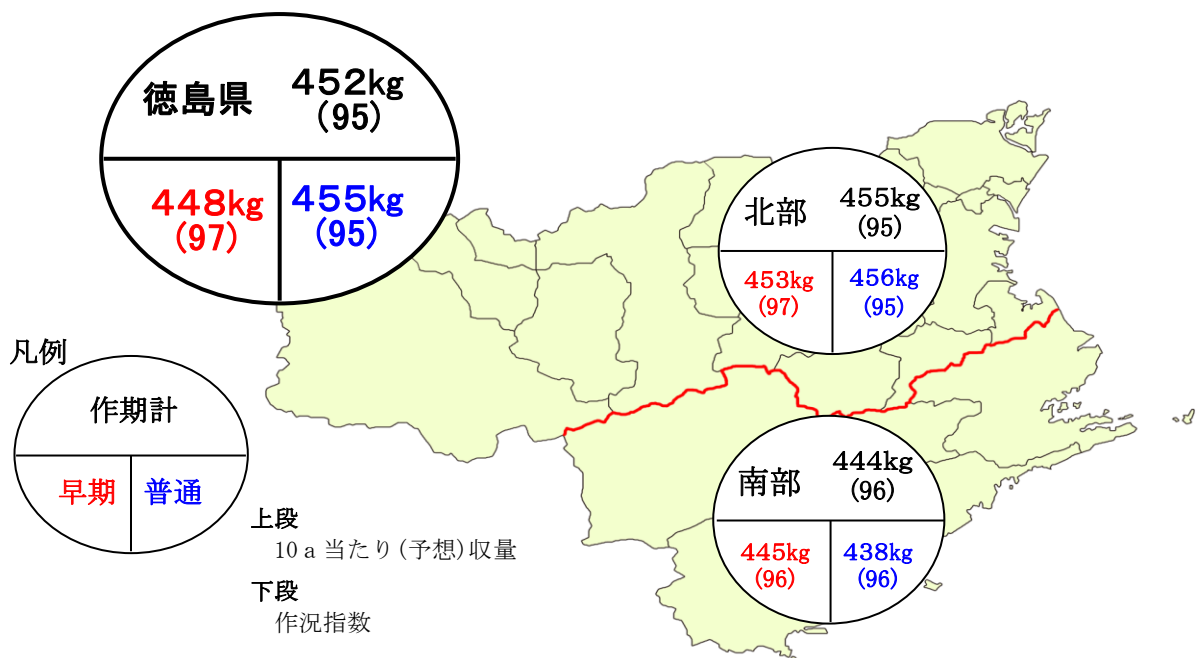


平成26年産
水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況（徳島県）
－ 10a 当たり予想収量は452kg（作況指数95）の見込み －

【 調査結果の概要 】

- 1 平成26年産水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）は1万3,500haで、うち主食用作付見込面積は1万2,800haが見込まれる。
- 2 9月15日現在における水稲の作柄は、総じて8月以降の台風第11号、12号及び日照時間が少なかった影響を受け登熟がやや不良で推移していることから、県平均の10a 当たり予想収量は452kg（作況指数95）が見込まれる。
- 3 作期別にみると、早期栽培の10a 当たり収量は448kg（作況指数97）となった。
普通栽培の10a 当たり予想収量は455kg（作況指数95）が見込まれる。
- 4 主食用作付見込面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は5万7,900tが見込まれる。

図 地帯別作期別10a 当たり（予想）収量（9月15日現在）



- 1 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付見込面積を除いた面積である。
- 2 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり（予想）収量の比率である。
- 3 この作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測したものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。
- 4 本調査の目的、調査対象、北部、南部の範囲などは「調査の概要」（P6）に記載している。

【 解 説 】

1 水稻作付面積（青刈り面積を含む。）

平成26年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は1万3,500haで、前年に比べ100ha減少した。

なお、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付見込面積を除いた主食用作付見込面積は1万2,800haで、前年に比べ300ha減少が見込まれる。

2 作柄

(1) 早期栽培

ア 田植後の5月の気温や日照時間が平年を大きく上回り、6月の気温もやや高く推移したため、全穂数は「やや多い」となった。

イ 1穂当たりもみ数は、梅雨の影響と穂数がやや多かったことの補償作用により「やや少ない」となり、全もみ数は「平年並み」となった。

ウ 登熟は、8月以降、台風や天候不順により日照時間が平年を大きく下回ったことと、倒伏がみられたことから「やや不良」となった。

エ 以上のことから、早期栽培の10a当たり収量は448kg（作況指数97）となった。

(2) 普通栽培

ア 田植後は、早期栽培と同様の気象要因で推移したため、1株当たり穂数は「やや多い」となったものの、疎植栽培が進んでいることから、全穂数は「平年並み」となった。

イ 1穂当たりもみ数は、梅雨の影響により6月以降の日照時間が平年を下回ったことから「やや少ない」となり、全もみ数も「やや少ない」となった。

ウ 登熟は、早期栽培と同様に、8月以降の台風や天候不順により日照時間が少ない影響を受けたことから、「やや不良」で推移している。

エ 以上のことから、普通栽培の10a当たり予想収量は455kg（作況指数95）が見込まれる。

3 予想収穫量（主食用）

主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は5万7,900tが見込まれる。

表1 平成26年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり（予想）収量（作況指数）

区 分	作 付 面 積(青刈り面積を含む。)			10a 当たり (予想)収量 ①	10a 当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	参 考	
	実 数	前年産との比較					主食用作付 見込面積 ④	予想収穫量 (主食用) ⑤=①×④
		対差	対比					
	ha	ha	%	kg	kg		ha	t
徳 島 県	13,500	△ 100	99	452	474	95	12,800	57,900
作柄表示地帯別								
北 部	9,550	△ 20	100	455	479	95	…	…
南 部	3,970	△ 40	99	444	461	96	…	…
作 期 別								
早 期 栽 培	5,310	△ 40	99	448	463	97	…	…
普 通 栽 培	8,210	△ 30	100	455	480	95	…	…

注：1 主食用作付見込面積及び予想収穫量（主食用）の内訳を「…」としているのは、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付見込面積を作柄表示地帯別及び作期別に把握していないためである。

2 作柄表示地帯別及び作期別の作付面積の積み上げ値と徳島県計が合致しない場合があるのは、四捨五入（P8参照）のためである。

3 表中の「△」は、減少を表している。

表2 作柄概況

区 分	10a当たり (予想)収量	10a当たり 平 年 収 量	作 況 指 数 ③=①/②	穂 数 の 多 少 (平 年 比 較)	1 穂 当 た り も み 数 の 多 少 (平 年 比 較)	全 も み 数 の 多 少 (平 年 比 較)	登 熟 の 良 否 (平 年 比 較)
	①	②					
早 期 栽 培	448 ^{kg}	463 ^{kg}	97	やや多い	やや少ない	平年並み	やや不良
北 部	453	466	97	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良
南 部	445	462	96	やや多い	やや少ない	平年並み	やや不良
普 通 栽 培	455	480	95	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや不良
北 部	456	481	95	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや不良
南 部	438	456	96	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや不良

注： 本表の「穂数」「1穂当たりもみ数」「全もみ数」の多少及び登熟の良否に用いた表示区分は、「統計表の見方」(P8)に記載されている。

区 分	出 穂 期					刈 取 済 面 積 割 合	対 平 年 差
	始 期	最 盛 期	終 期	最 盛 期 の 比 較			
				対 平 年	対 前 年	%	ポイント
早 期 栽 培	7. 10	7. 17	7. 26	並み	1日遅	100	0
北 部	7. 14	7. 19	7. 26	並み	2日遅	100	0
南 部	7. 8	7. 16	7. 25	並み	1日遅	100	0
普 通 栽 培	7. 19	7. 31	9. 1	1日早	1日遅	56	△ 11
北 部	7. 19	7. 31	9. 2	1日早	1日遅	55	△ 11
南 部	7. 20	8. 1	8. 23	2日早	並み	66	△ 15

注：1 出穂期の始期とは出穂済み面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日である。

2 刈取済み面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを表している。

◎ 早期栽培累年データ

区 分	作 付 面 積 (子 実 用)	10 a 当 たり 収 量	10 a 当 たり 平 年 収 量	作 況 指 数	収 穫 量 (子 実 用)
平成16年産	5,170 ^{ha}	460 ^{kg}	465 ^{kg}	99	23,800 ^t
17	5,290	480	463	104	25,400
18	5,290	440	463	95	23,300
19	5,260	445	463	96	23,400
20	5,350	488	463	105	26,100
21	5,330	458	463	99	24,400
22	5,190	453	463	98	23,500
23	5,080	449	463	97	22,800
24	5,100	464	463	100	23,700
25	5,290	468	463	101	24,800

注： 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積をいう。（以下の各表において同じ。）

◎ 普通栽培累年データ

区 分	作 付 面 積 (子 実 用)	10 a 当 たり 収 量	10 a 当 たり 平 年 収 量	作 況 指 数	収 穫 量 (子 実 用)
平成16年産	8,940 ^{ha}	464 ^{kg}	477 ^{kg}	97	41,500 ^t
17	8,790	491	480	102	43,200
18	8,780	467	480	97	41,000
19	8,710	493	480	103	42,900
20	8,520	514	480	107	43,800
21	8,410	479	480	100	40,300
22	8,290	482	480	100	40,000
23	8,140	472	480	98	38,400
24	8,120	485	480	101	39,400
25	8,130	499	480	104	40,600

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産数量目標の策定及び達成状況の検証のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 徳島県計の水稲累年データ

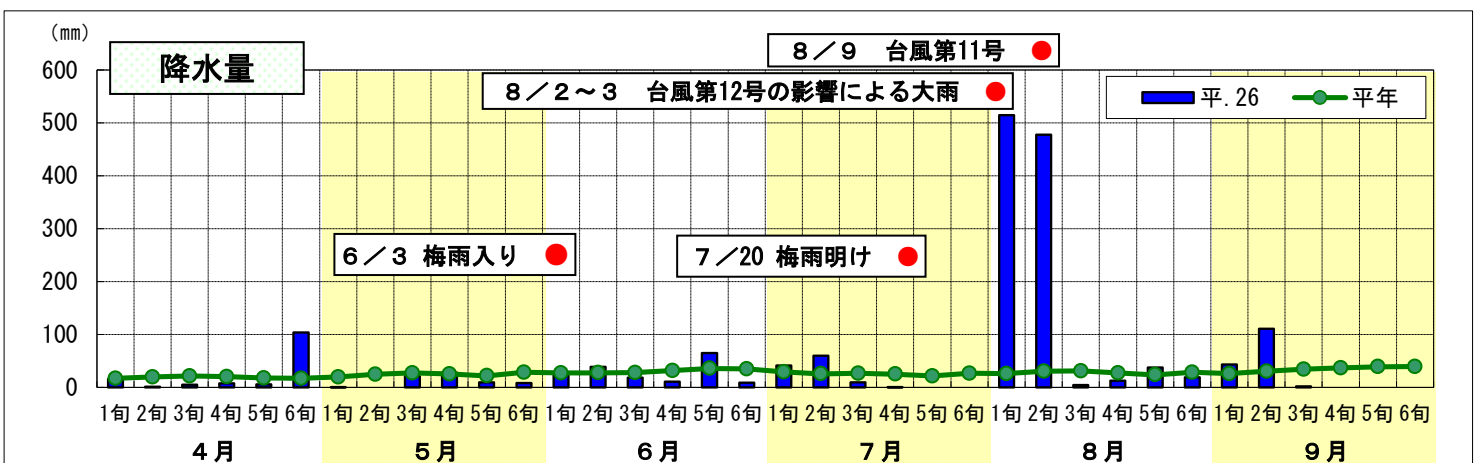
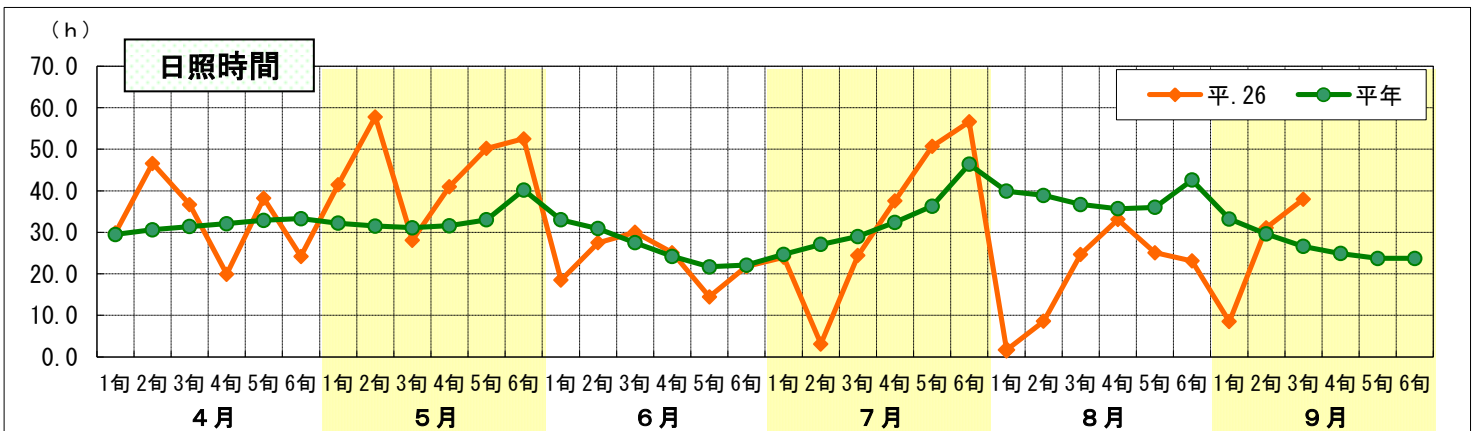
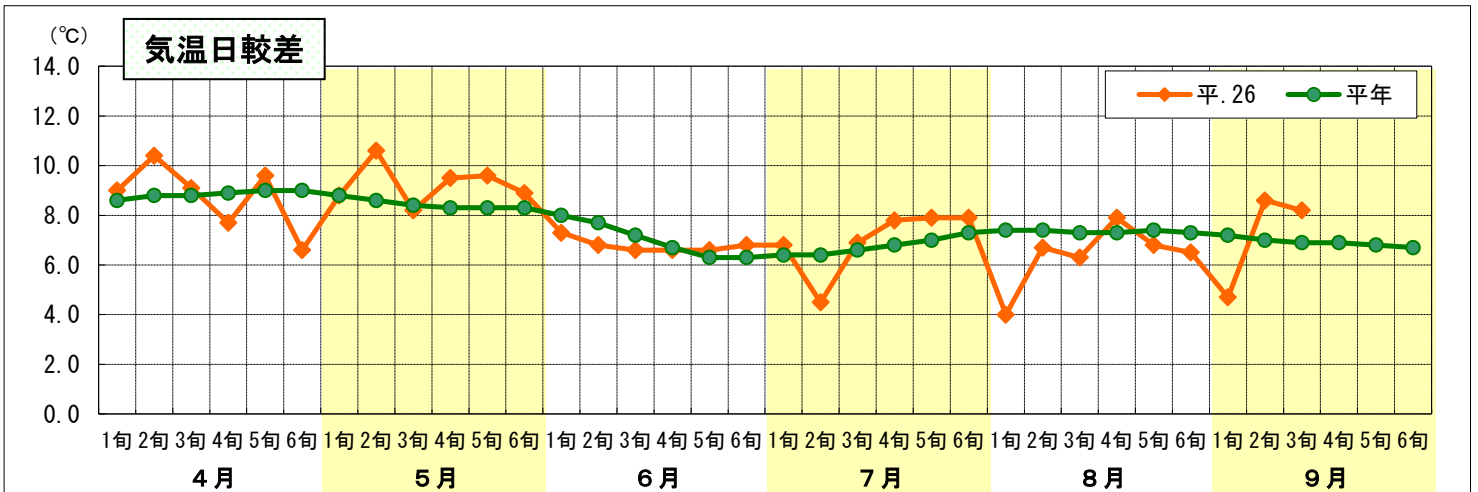
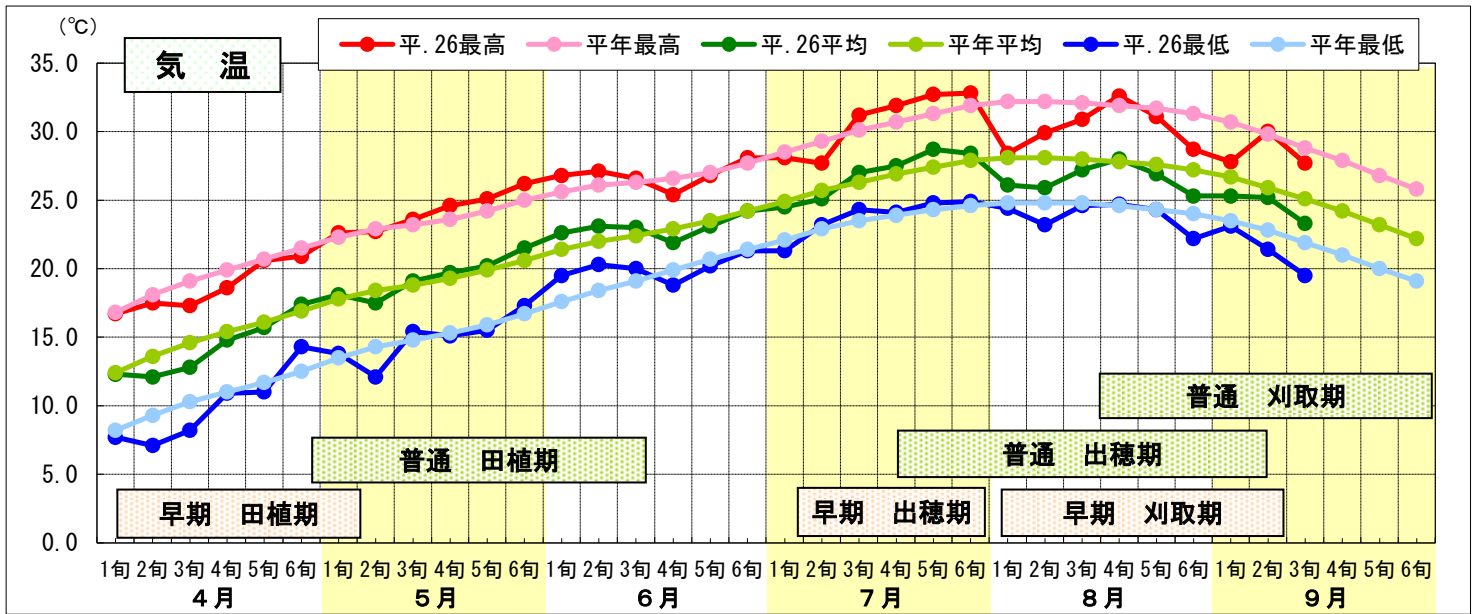
区 分	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	10 a 当たり 平年収量	作況指数	収 穫 量 (子実用)	(参 考)	
						主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主食用)
	ha	kg	kg		t	ha	t
昭和59年産	17,700	457	414	110	80,900	…	…
60	18,000	464	418	111	83,500	…	…
61	17,700	448	424	106	79,300	…	…
62	16,700	443	427	104	74,000	…	…
63	16,400	447	432	103	73,300	…	…
平成元	16,400	441	436	101	72,300	…	…
2	16,400	434	441	98	71,200	…	…
3	16,300	436	445	98	71,100	…	…
4	16,700	425	445	96	71,000	…	…
5	16,800	388	445	87	65,200	…	…
6	17,200	504	445	113	86,700	…	…
7	16,800	484	445	109	81,300	…	…
8	16,200	472	447	106	76,500	…	…
9	15,800	449	453	99	70,900	…	…
10	15,300	452	455	99	69,200	…	…
11	15,100	464	462	100	70,100	…	…
12	14,900	476	468	102	70,900	…	…
13	14,500	471	468	101	68,300	…	…
14	14,300	476	472	101	68,100	…	…
15	14,100	453	472	96	63,900	…	…
16	14,100	463	472	98	65,300	…	…
17	14,100	487	474	103	68,700	…	…
18	14,100	457	474	96	64,400	…	…
19	14,000	475	474	100	66,500	…	…
20	13,900	504	474	106	70,100	13,900	70,100
21	13,700	471	474	99	64,500	13,700	64,500
22	13,500	471	474	99	63,600	13,500	63,600
23	13,200	463	474	98	61,100	13,200	61,100
24	13,200	477	474	101	63,000	13,100	62,500
25	13,400	487	474	103	65,300	13,100	63,800

注：1 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。

2 「…」は事実不詳又は調査を欠くものである。

【平成26年 稲作期間の気象経過】

資料：気象庁
観測地点：徳島



【 調査の概要 】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査のうち、水稻作付面積調査及び水稻作柄概況調査として実施し、水稻の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の区分

調査は、早期栽培、普通栽培ごとに、県内を北部、南部に区分して実施している。

北部：徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町

南部：阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町



3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：507単位区 巡回・見積り：24市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆：150筆 作況基準筆：6筆 巡回・見積り：24市町村

4 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 作柄概況調査：9月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りの方法により行った。

(2) 作柄概況調査

調査は、作況標本筆及び作況基準筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りの方法により行った。

7 集計の方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。

(2) 作柄概況調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りの方法により補完して取りまとめている。

8 用語の解説

(1) 10a当たり平年収量

水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況を平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

(2) 早期栽培

台風の影響を受けやすい時期に出穂期（しゅっすいき）となることを回避する等から、おむね8月中旬頃までに収穫する目的で作付けする栽培方法である。

(3) 穂数

単位面積当たりの出穂した全ての穂の数である。収量決定に当たって重要な要素の一つである。

(4) 全もみ数

単位面積当たりの全体的もみの数である。収量決定に当たって極めて重要な要素である。

(5) 登熟

開花・受精した後、実が肥大し熟れていくことである。生育条件や気象条件、病虫害などの影響を受ける。

(6) 青刈り

子実の生産以前に刈り取られて飼肥料などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指している。

9 利用上の注意

- (1) 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行っている。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。
- (2) 表中で用いた表示区分は、過年次の作況標本筆結果から作成した各指標の平年値に対する比率を、次のとおりの区分で表している。

多 少 (良 否)	少 ない (不 良)	やや少ない (やや不良)	平 年 並 み	や や 多 い (や や 良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (3) 表中の統計数値については、次の方法によって四捨五入している。

原 数		5 桁 (1 万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四 捨 五 入 する 桁 数 (下から)		2 桁	1 桁	四捨五入 しない
例	四 捨 五 入 する 前 (原 数)	12,345	1,234	123
	四 捨 五 入 した 後 (統計数値)	12,300	1,230	123

今後の発表予定

- ◎ 10月 平成26年産 水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）（徳島県）
- ◎ 12月 平成26年産 水稻の収穫量（徳島県）

お問合せ先

中国四国農政局徳島地域センター

農政推進グループ 生産流通消費統計チーム

Tel : 088-625-6990 (内線351) Fax : 088-654-1383



平成27年2月1日現在で、2015年農林業センサスを実施します。

- 農林業経営体調査（平成26年12月中旬～平成27年2月末）
- 農山村地域調査（平成27年4～6月末）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。

農林業センサスホームページURL : <http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc>